

研究者インタビュー

「日本の現代中東研究を引っ張ってきたバイオニア」福田安志さん（新領域研究センター 上席主任調査研究員）

二〇一六年四月に着任された福田さんに、アジ研での研究内容やこれまでの歩みをおうかがいしました。

研究者としてのこれまでの道のりを簡単に教えていただけますか？

子どもの頃から歴史に興味があり日本史が好きでしたが、大学に入ってから中東の歴史に関心が移りました。一九八三年から二年間、日本大使館の専門調査員としてオマーンに滞在し、それ以降、アラビア半島の一九世紀から現代の歴史を中心に研究していました。

一九九四年にアジ研に入所しましたが、それからは現代のサウジアラビア、UAEなどGCC諸国（湾岸協力会議）について広く担当しました。研究会を行い、外からさまざまな問い合わせを受けるうちに現代の政治、経済など幅広く知識が積みまわりました。特に経済分野や石油についての質問を受けることが多く、原稿や講演なども経済や石油についてのものが多くなりました。

入所の頃は、国内の中東研究者は歴史学の研究者が圧倒的に多く、ましてや、現代のアラビア半島の研究については、日本では研究者はほとんどいませんでした。そうしたなかで、GCC諸国研究のバイオニアとして何とか道を切り開いてきたと思います。

アジ研ではどのような研究をされてきたのですか？

入所後しばらくは、イスラームと国家体制との関係に関心があり、アラビアの部族社会でどのように国家が形成されたか、また、国家形成の過程でイスラームがどのような役割を果たしたのか、石油後の経済発展にともなう社会変容で政治がどのように変わったのかについて調べていました。

そのテーマにかかわる研究会のなかでは、特に一九九七～九八年にカイロで実施したサウジアラビアの政治に関する研究が、研究の枠組みを整理し、英文で成果を発表できたこともあり印象に残っています。その間海外調査員としてサウジアラビア、エジプトにも一年ずつ滞在しました。

二〇一四年に早稲田大学イスラーム地域研究機構に移りましたが、そこでは多文化環境のなかでの共生をテーマに、マラヤ大学（マレーシア）やアブダビの大学と共同研究を実施し、国際会議を開催するなどネットワークの構築を行ってきました。そして今年またアジ研へ戻ってきました。

バイオニアとして研究を続けてこられて、その間日本の中東研究に変化はありましたか？

私が研究を始めた時代に比べて、国内の研究が数の上でも、研究の深さの点でも飛躍的に発展しました。現代のアラビアについての研究者は何十人にも増え、状況はとて変わってきたと思います。

心強いですね。今後はどんな研究を行っていきたいですか？

今後はサウジアラビアについて、特定のテーマにしほることなく政治や経済などの研究を行っていきたいですね。また、歴史学の分野では、一九世紀から二〇世紀にかけて中東に多く居住していたインド人に対するイギリスの司法権、領事裁判についての研究なども進めたいと思っています。

アジ研に戻ってきて感じたのですが、アジ研では、途上国や日本の実社会との関係のなかで研究を進めており、大変ではありますが、充実感も得られます。中東とのつながりを重視しながら引き続き研究を続けていきたいと思っています。

（聞き手：研究マネジメント 佐々木晶子）

（略歴） ふくだ さだし

一九八二年中央大学大学院博士課程修了（文学研究科）。一九九四年アジア経済研究所入所。リヤドのイマーム大学客員研究員（海外調査員）、カイロ・アメリカ大学客員研究員（海外調査員）、地域研究センター長などを経て、二〇一四年に早稲田大学イスラーム地域研究機構教授・上級研究員。今年四月から現職。サウジアラビアをはじめとした湾岸諸国の政治・経済を中心に研究活動を行っている。

